

新商品

燃費向上したラパン

スズキは、軽乗用車「アルトラパン」を一部改良し発売した。新型の無段変速機(CVT)を採用し、燃費は自然吸気エンジンの前輪駆動でガソリン1ℓ



あたり25.0キロと向上させた。燃費効率が良い運転状態で点灯するエコドライブインジケータを標準装備。前輪駆動タイプの「X」が122万2200円。県内ではスズキ自販栃木が取り扱う。

屋外用のドッジボール靴

ミスノは、小学生を対象にした屋外用ドッジボールシューズ「ドッジファイター アウト」を発売した。親指周辺が曲がりやすいよう靴底に溝を配置したほか、滑り止めの突起も備え、地面を力強くけることができる。サイズは21.0~25.0で、価格は4095円。



短 信

秋の投信キャンペーン

足利銀行は1日から、「秋の投資信託キャンペーン」を実施する。MMFを除く投資信託を50万円以上購入した個人に、抽選で年末ジャンボ宝くじを贈る。50万円1口でA賞300枚は10人。10月29日まで。

新築建物に古材活用

環境負荷の軽減を図る

ユニバーサルデザイン建築事務所(那須塩原市安藤町、鈴木健規社長)は、解体された古民家で不要となった梁や柱などの古材を、新たな住宅、店舗の建材として再利用する事業を本格化させた。産業廃棄物として処分される古材を再利用することで、焼却処理の際の環境負荷軽減を図る。

同事務所は、古材ビジネスを展開するヴィンテージアイモク(松山市吉田町)から供給を受け、4月以降、那須塩原市、

那須町で一部に古材を再利用した新築住宅8棟を請け負った。8月には店舗の第1号となる、マッサージ店「み処癒堂。」(大田



建物の一部に古材を使ったマッサージ店=大田原市本町1丁目

原市本町1丁目)が完成した。同店には、長野県築80年の古民家で使われていた梁7本と柱13本を再利用。一般社団法人200年住宅再生ネットワーク機構によると、古材を焼却した場合、約1トンの二酸化炭素が発生。ブナ92本が1年間に吸収する量に相当するという。古材の再利用は「建築屋だからこそできる環境活動」と考えた鈴木社長が発案。今年3月に自ら古民家鑑定士の資格を取得した。古材を使う場合、長さの違う柱や曲がった梁を現代の建物に生かすため、高い技術が必要となる。加工、流通コストなどがかるた

め、建築費は一般木材使用に比べ、古材1本当たり10万円ほど高く

なる。一方で鈴木社長は、環境対策だけでなく「画一化された木材にない温かみ、味わい深さがある」と、古材の良さをアピールする。

「20年後は日本人が1億人を割り込むと言われており、多くの古材が産廃化する懸念がある」と鈴木

6月の県民生活発表した6月の産業指数(200

今年も「文星健康弁当」2種、きょうから限定販売

スーパーマーケットチェーンのオータニ(宇都宮市平出工業団地、阿久津平社長)は1日、県内27店舗で宇都宮文星短大との産学連携で開発した「健康弁当」の販売を始め、2カ月限定。9月は「ハンバーグのきのこソースと3種のご飯弁当」、10月は「白身魚のトマトソースと枝豆ご飯弁当」を各店で調理、販売する。各598円(税込み)。

同短大の藤生恵子准教授のゼミで、栄養士を目指す学生7人がレシピを考案。県の「とちぎ健康づくり応援弁



本年度の健康弁当を開発した宇都宮文星短大の学生と藤生准教授(後列中央)

いよいよだと思ふ。その